

# かけ橋

第22号 2003年12月8日発行  
新潟国際ボランティアセンター事務局  
951-8126 新潟市学校町通2-5293-3 学校町ビル4F  
ホームページ: <http://www.nvcjapan.org>  
E-mail: [info@nvcjapan.org](mailto:info@nvcjapan.org)  
Phone & Fax: 025-222-7899



## 若手、大いに語る

特集

### NVCの未来を考える

.....P.2



(写真) 今年8月31日に開かれた「NVC若手未来トーク&ワークショップ」

若手の活躍がますます著しい今年のNVC。彼らNVCをどう見、どう感じ、どんなふうになったらいいと考えているのでしょうか？ よし、それなら一度集まって、言いたい放題語ってみよう！ そんな集まりが実現しました。今年の冷夏をはねかえす、熱いトークの結末は？

#### CONTENTS.....

### 特集 NVCの未来を考える ..... 2

NVCのここが“ヤバイ”  
若者が参加しやすいNVC  
NGOとしての自覚って何？

### 第15回愛のかけ橋バザーが開催されました ..... 6

15回目を支えてくれた皆様に、感謝！  
お客様の声大特集！  
続々！新企画 / バザーで出る「ごみ」のこと  
ご協力いただいた皆様

### Hot News ..... 12

2003-2004年度のNVC奨学生を決定しました 桐生裕子  
ベトナムカフェ 服部彩子  
「NVC地球を知る講座」実施報告 山井和緒 / 関 一弥

### リレー・トーク ~ NVC's Human Network ~ ..... 18

藤崎千代子さん / 吉田あすかさん / 永井亜矢子さん / 西村智奈美さん

### 事務局だより ..... 20

特集

# NVCの未来を考える

## 若手の活躍がたのしいNVC

彼らは、NVCの未来にどんな可能性を感じているのでしょうか？

この夏に開かれた、「NVC若手未来トーク&ワークショップ」の様子をお伝えします。



と き：2003年8月31日  
 ところ：新潟市総合福祉会館  
 出席者：加藤健太 清野 歩 後藤さおり 清水洋明 関本すや子 関 洋介  
 西村智奈美 灰庭紀子 長谷川杏里 藤井由美子 峯村康明 吉田あすか  
 ファシリテーター：金子洋二 村山康成  
 オブザーバー：進直一郎 (計15名)

### プロローグ

「我こそは若手だ」と思う人は全員集合！ この日集まったのは、実年齢とは関係なく「自称若手」の15人。NVCとの関わりも、これから参加しようと思っている人から設立以来の会員まで多種多様。それぞれの立場から、NVCについて感じていること、考えていることを語り合いました。

参加者をまず待っていたのは、「あなたとNVCの関わりは？」というアンケート。そこには、次の質問が書かれていました。

### Q1.あなたとNVCとの出会いは？

「知人に誘われて」「バザーに参加して」「スタディツアーに参加して」「大学のサークル活動で」「運営委員会を見学して」等々、きっかけは様々です。NVCには、いろんな人が関わるいろんな「場」が用意されていることを改めて実感しました。

### Q2.あなたのNVCにおける主な活動は？

「バザー当日のもりあげ役」「事務局のお手伝い」「プロジェクトの担当」「会員の話し相手」「ホームページの作成」「チラシの作成」「これから参加しようと思っている」等々、これまたバラエティ豊かな回答でした。

### Q3.あなたの活動が、NVCにとってどんな意味があると思いますか？

一番多かったのは、「模索中」「今のところわからない」「目に見えないし実感もない」などの回答でした。そのほか、「会費を払うこと」「労働力の助けには少しはなっている」「バザーをPRする手助け」「学生とのつなぎ役」などの回答も。

### Q4.この先、NVCとどのように関わっていきたいと思っていますか？

「できる範囲でできる事を」「できることはきっちりと」「結果が出れば今後も協力したい」「会費を払い続けること」「またバザーに参加したい」「面白そうなイベントがあれば」「バザーだけでなく、様々な方向に」「運営委員会に参加してみたい」「私がどう生きたいか・・・と絶妙にリンクしていくといいなあ・・・」など、ユニークで興味深い回答が際立ちました。

Q1とQ2はこの日のプログラムが始まる前に、Q3とQ4は、帰るまでに記入する、ということになっていました。

最初に、Q1・Q2の回答を元に一人ひとり自己紹介をし、それと同時に出示してもらったのが、次ページの「NVCのここがヤバイ」です。



若者のことばで、「ヤバイ」というと2通りの意味があります。ひとつは文字通り「危機的である」という意味で、もうひとつはそれと全く反対の「最高にいい」という意味。参加者には、自己紹介と同時に2つの意味の「ヤバイ」をそれぞれひとつずつポストイットに書いて出してもらいました。それを似たもの同士でまとめ、グループにしたのが下の紙です。

## NVCのここが “ヤバイ”

いいヤバイ

よくないヤバイ

バザーがとてもよい

個性豊かな人が  
たくさん

できる範囲で  
参加できる

幅広い年齢層

組織が固まり  
すぎてない

熱意

広く人助けに  
なっている

知名度

専門家が少ない

ゴーイング・  
マイ・ウェイ

広報活動が  
足りない

若者が少ない

コアスタッフが  
固定化

若者が定着  
しない

会員以外の人々との  
コミュニケーション  
不足

組織的でない



いい意味での「ヤバイ」の方では、参加のしやすさや関わる人々の魅力がキー・ポイントになっているようです。一方、悪い意味での「ヤバイ」の方は、活動が組織的でないこと、活動の核となる層が固定化しつつあることが様々な不安を産んでいるようでした。

そこで、全員で出し合った2つの「ヤバイ」から、後半のフリートークで採り上げるテーマについて話し合いました。結果、テーマは

若者が参加しやすいNVC

NGOとしての自覚って何？

の2つに決まりました。

## 若者が参加しやすいNVC

金子：まず、最近NVCと関わり始めた人にお聞きしますが、NVCはどんな印象でした？

吉田：最初、運営委員会に行きましたが、居心地はよかったです。

後藤：年配の方の中にも若い人が交じって、入っていきやすかった。

清野：友達に誘われ、面白そうなので。

長谷川：バザーがきっかけでしたが、色々説明してくれる人がいて安心できました。「新潟から発信する国際ボランティア」というコンセプトがいい。

金子：割と入りやすい組織ではあるんですね。でも一方で、なかなか留まってくれない、という事実もあるようですが、どうしてなのでしょう？

関：自分の場合は、入ったとたん次々と役割を与えられ、やり甲斐を感じて続いています。具体的な作業がないと離れていっちゃうのかな？

峯村：自分が続けているのは、仲のいい友達と一緒に参加しているところが大きい。

藤井：今やっている作業がどこにつながっているのが見えないとつらい。施策を感じながら関われないいいけど、それが感じられないと、自己増殖するウィルスのように、銘々勝手にNVCとの関わりを模索するしかない。

金子：「作業の行き先が見えない」って感じた人、



他にいますか？

加藤：バザーの収益金が何に使われているのか、実際にスタディツアーでベトナムに行くまでわからなかった。

清水：参加を呼びかけるタイミングは大事だと思います。途中から参加した人に対しては、流れを理解してもらうためにそれなりのケアが必要です。

金子：なるほど。ではやっぱり、気持ちよく仕事をしてもらうためには、どんなものがあるといいんでしょう？

峯村：会員同志が集まる場がないとダメ。会報だけ送られてきててもやる気につながらない。運営委員会以外にも、

顔の見える関係がつけられる機会があるといい。

藤井：今日のようなものいい。普段、こんな話をみんなですることなんてなかった。

峯村：今のNVCのメーリングリストは運営委員会が中心の事務的なもので、会員のコミュニケーション用のものがあるといいと思っています。

関：最近、バザー用にボランティアスタッフの皆さんも一緒にメーリングリストをつくったんですが、せつくなので、バザーが終わっても続けていこうと思っています。

清水：NVCの中で、「×部会」のように、小さなグループがたくさんあっていいのでは？

金子：プロジェクト毎にチームはできているんだけど、そういうところへの参加をもっとオープンにしてもいいと思いますね。

長谷川：去年のバザーの後、「バザーで綴る大学生のかけ橋」というのを勝手に作ったら、後から運営委員会で認められました。

藤井：こういうウィルス活動はもっとあっていいと思う。やった者勝ちで。なんでもかんでも運営委員会を通すのでは不自由。オフィシャルなもの、オフィシャルじゃないもの、それぞれに認められるべき。

関：今年バザーの実行委員長をやった初めて知ったことが多かったのだけれど、これまでの情報やノウハウの蓄積が、だれもが参照できる形で用意されてなかった。

金子：その辺は、NPOとしての組織のあり方から言ってもとても大事な問題ですね。

ちょうどいい導入をもらったので、そろそろ次のテーマに移っていきましょうか。



## NGOとしての自覚って何？

金子：NGOとしての自覚って何でしょう？ 大きなテーマですが、思いつくままにどなたからでもどうぞ。

峯村：現状に満足せずに、もっとよくしていくんだということを一人ひとりが意識していくことだと思います。

加藤：いろいろな人の声を聞くことでしょうか。

前野：外からあるていど自覚を促す力が必要だと思います。一度去っていった人たちも、ちゃんとフォローすれば戻ってくるかも知れないし、そういう人たちのNVCに対する評価って大事だと思う。離れていったのではなく、組織として人材を埋もれさせているだけかも。

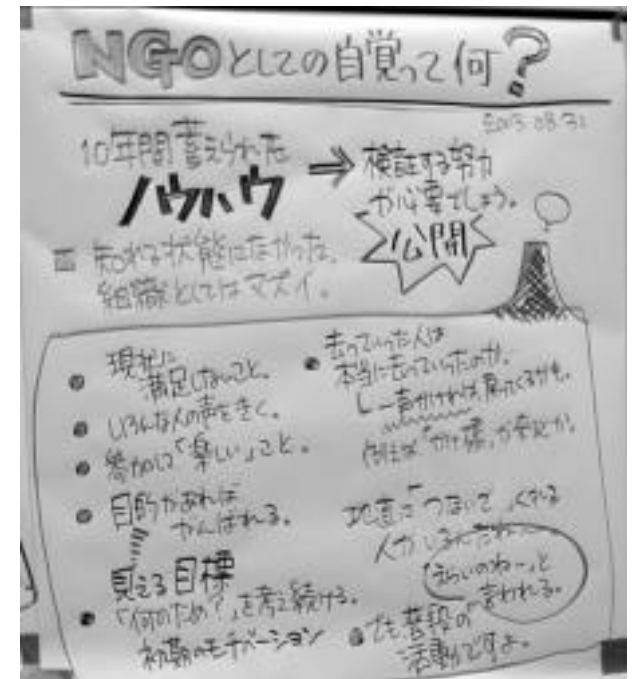
藤井：休火山状態って言えるかも。そもそも、誰がやる気があって誰がやめたいと思っているのかわからない。もっとコミュニケーションが必要。

峯村：気がつかないところで意識がつながっている、っていうことはありますね。

金子：僕も、ずっと活動してなかったんですけど「かけ橋」っていうきっかけがあって戻ってきました。

吉田：しばらく休んでいた時期があったけど、つないでくれる人がいて戻りやすかったです。

清水：楽しくなければ続かない。自発性を引き出すにも楽しさが必要でしょう。



清野：それと、目的がはっきりしていることでしょうか。

後藤：それと同時に、何のためにやっているのかということも常に考え続けていくことも大事です。

藤井：Made in 新潟で世界に発信しているNVCはすごい。組織としての目標も大事だけど、そこに個々人の価値観が一緒にあっていいと思う。

関：ノウハウの蓄積を、後からきちんと検証する努力も必要。まず情報を公開するところから。

長谷川：私は、「えらいことをやってるねえ」と言われるたびに「何か違う」と感じます。NGOの活動は必要があるからやっているのだから、私たちもそこから喜びを得られるからやっている。そうしたことのアピールも必要かな、と思います。

金子：裏を返せば、やっている私たちも「いいことをやっているんだから」というところで妙に満足し、落ち着いてしまうところもありますね。目的をもってやっているのならば、ボランティアや寄付といった資源を、きとんとそのために使っているという説明をする責任もあるのだと思います。

ちょうど時間になりましたので、今日はこれでおわりにしたいと思います。どうもありがとうございました。こういうの、またやりましょう。



# 第15回 愛のかけ橋バザー

## 15回目を支えてくれた皆様に、感謝！

第15回愛のかけ橋バザー実行委員長  
関 洋介



2003年10月25・26日、新潟市中郵便局3階体育館にて、第15回NVC愛のかけ橋バザーを開催することができました。品不足・人不足と言われた中、大健闘と言えるような結果を残すことができました。会場を使用させていただいた中郵便局をはじめとする郵政関係の皆様、品物をご寄付くださった協力企業・団体・個人の皆様、バザーの宣伝に協力してくださったテレビ・新聞・ラジオ等報道関係の皆様、準備・当日作業にあたってくれたボランティアスタッフの皆様、そしてお客様、本当にどうもありがとうございました。

バザー全体の収益金額は例年に比べ幾分ダウンし、厳しい時勢を思わせるものとなりました。

しかし民族衣装試着やハンドペインティング、健康診断などのブースを設けたり、商品の配置に工夫を凝らすなど、「売る」ためのアイデアもたくさん出てきました。



商品になるべく残さないように売ったり、ゴミ処理について問題提起があったりと、イベント自体の精度を上げようとする動きにも目覚しいものがありました。

また、不景気の中「昨年よりも少ないけれど」とおっしゃいながらも品物をご寄付下さった方、あるいは広い会場の中数人で必死に値付けにあたってくれた方、遠方より新潟の地に着くや否や作業にあたってくれた方、そういった個々人の姿は私の目に焼きついていきます。目の前に大きな課題が立ちただかっても、必要を感じて、責任をもって行動する人がいる限り、決して悲観することはないと勇気付けられました。まさに、「これぞNVC」という真髄に触れた想いでした。

愛のかけ橋バザーは、NVCの安定した資金調達の機会であるとともに、ネットワークの活性化においても重要な意味を持っていると考えています。その両者のバランスを取ることが大事なのは言うまでもないことですが、一面的な議論にならないように気をつけながらも、覚悟をもって決断をしていくことの難しさは想像に余りあるものです。ひとつの節目を経たわけですが、厳しい状況の中に底力を垣間見た今回のバザーを、しかと心に留めて新しいステージに進みたいと思います。

初めてバザー実行委員長として準備に当たり、多くの方々にご迷惑をおかけしましたが、人の目に触れないところで協力して下さる方のお姿を拝見する機会も得ることができました。最後になりましたが、根気よくご指導下さった皆様に、重ねて御礼申し上げます。

今年残した記録をもとに、来年もよいバザーにしたいと思えます。皆様、どうか来年もご協力よろしく願います。

今年の成果は：  
収益：2,065,521円(売上げ+寄付金の合計)  
参加ボランティア延べ人数：  
（搬入・値付け）61人（当日）216人  
入場者数  
（25日）956人（26日）551人



## お客様の声 大特集！

2日間を通して行ったアンケートの中から、お客様の声をひろってみました。

この様な催し物をどんどんやってほしい。/ バングラディッシュのパネル展示が良かった。/ **がんばって下さい。** / カップ&ソーサーは一器一器のバラ売りにして欲しかった。<一人暮らし>でも五器セットで3000円は、大変安いと思えました。/ とても良かったです。来年も来たいです。/ このような催し、一般の人はほとんど知らない。私は偶然に知った。/ 若い方々の呼びかけが嬉しいですね。/ **PR不足を感じました。**このような活動をしていることも初めて分かりました。バザーの協力等どのようにすればよいのか分かりませ**ん私にできること」これからが出発です。**村の現状のアピールがほしい。このように活動している若者がいることで感動igまじした。/ appreciate the programme organized by NVC. The volunteers are working hard for the people of the developing countries. Bangladesh stall running by Makiko san impressed me very much. / **毎年ごころうさまです。** / アジアの困っている方々の為に私一人では何もできません。ここのバザーで何か買わせてもらうことで少しでも力になればと考えています。今後もこのようなバザー等来たいと思います。/ 次も必ず来ます。もちろん商品も出します!! / もっと他のアジアのお店もあればいいですね。また、その国の食べ物等も出店されるといいと思います。/ 頑張って続けてください。/ いつも一生懸命活動されているとのことで、御苦労様です。/ 若い人たちがアジアの平和のため一生懸命なのに、日本もそう心配したものは無いと安心しました。/ とても良かった。会場の皆様も対応がとてもよかったですよ。/ アフガンの子供達のことを考えて来ました。皆ボランティアの方も、親切で一生懸命でした。/ 私たちは自分の欲のために物を買っているけれど、これが、アジアの子供たちのために役立っているのはうれしいことです。/ 思ったよりも良いものを見つけた。/ 早く手をさしのべてほしい(世界に)。/ 若い人達がボランティアでしているのに感心しました。/ おかしがおいしかったです。/ もっと大きくなることを願っています。/ **毎回来させていただきます。**たのしい買い物ことができました。ありがとうございました。/ 開店前に並んでいる時、係の方が並び方を指導していただければ、なお良かった。/ 10時前の列の誘導がいなかった為、大変だった。来年は、きちんとスタッフが誘導した方が良い。安全の為!! / 売り子が、ちょっと可哀想だ。あんなし、いいのがなくて無理やり売るより、簡単な寸劇でもやった方が、良いのではないかな買う方もつらい。買ってやりたいが。) / **この季節の風物詩になってきました。** / 場所がわかりにくかった。もっとPRしたほうが人がたくさん来て良いと思います。がんばってください。/ 楽しかった。良いと思う。もっと回数をふやしても良いのでは。/ このままの状態バザーを続けてほしい。/ 品物がたくさんあってよかったが、換気をよくしてもらいたい。/ 若い方々が頑張っているのを、応援しました。/ 約15年前にNVCのメンバーになったことがあり**表裏立**当時だった様な気がします。)いつのまにか脱会してしまいましたが、activeに足を運んでボランティアなさっている方々には頭が下がります。また、バザーも多くの若い方々が、奉仕なさっているのにも感謝です。/ すばらしかったなと思えました。ボランティアとかに興味があったのでおもしろかったです。バングラディッシュのペイントが、とてもかわいいです。/ 今日初めて来ましたが、来年も、そしてずっと来たいと思えました。売ってるお姉さん達もカワイクてやさしかったです。バングラディッシュのペインティング、とても良かったです。/ 皆が仲良く暮らしていける国にして欲しい。/ **値が高すぎます。**バザーという安い値目当てで来ますから。学校や幼稚園ではこの半値です。本は100円、衣類は500円位。タオルもこの半値です。/ 身近なもの売って募金にするのはとてもいいと思います。これからも頑張ってください。/ 今年是不況のせいか、品物の集まりが悪かったのでしょうか? / **スタッフの方々の笑顔が大変良く、また次回も寄付をしたり、買い物をしようと思う。** / **新潟に根付いた活動をされているのだと感じました。** / こういう事があるなら、家の中の不用品を誰かの役にたててもらえる様にお手伝いしたいです。/ とてもいい事だと思えますので、**今度は主人をさそって来ます。** / 衣装きるのがたのしかったです。/ **とても雰囲気良かった**と思う。売っている人達、呼びかけしている人達、とても好感がもてました。/ すばらしい企画だと思います。/ 今度は不用品をもらって頂きたいです。/ 募金はコンビニとかで呼びかけた方がいい。/ この活動があることを初めて知ったので、もっと学校等を通して大々的にPRしても良いと思った。/ 毎年、これからも来ます。お手伝い出来ないの、そのかわりです。御苦労様でした。ありがとう。/ **あまりの安さにびっくりしました。** / 地域の見学案内で回してもっと広くこの様なバザーに参加できる様な活動も必要と思います。対応して下さる店の方々の心の暖かさを感じ、ホットな気分で買い物をさせて頂きました。/ 今年は何が少なくてがっかりだわ。手作りのものをもっと置いてほしい。アジア系のもの。 **安価でボランティアの商品を値切っている人を悲しく思いました。** これからも頑張って下さい。もっと沢山買いたかったのですが、車で遠かったので残念です。もっと早く知りたかったです。(キャリーをもって来る事ができたから。) / 学生さんが元気よくて、好感がもてました。/ **ヘナペイントすてきです。** 100円という値もgood。/ もっと広くひろまって、会場も大きくなると良いと思います。/ 少しでもお役にたてばと思って少々買わせていただきました。/ Thanks for all people who had arranged for this bazar for the sake of poor people in Asia.It is very much appreciated. / 私達もNPO法人として活動資金獲得に知恵をしぼっています。来年度は当会でも活動紹介・資金獲得のチャリティーを行いたいと思ひ、本日は視察! ? に参りました。/ 入口で案内していたのが良い。御苦労様です。/ **春と秋(年に2回)してほしい!** / 古町ど

# 続々！新企画

年々進化するNVCのバザー「また来なくなるバザー」をめざし、今年はこの企画が誕生しました。

## マニュアル

当日スタッフ向けに、バザーの主旨や収益金の使途、会場内各ブースの説明や共通のルール・注意事項などをまとめたマニュアルをつくりました。



これが楽しみでボランティアに来る！という人もいるくらい好評なグリーンカレーが、スタッフのお昼ごはんに復活！

## グリーンカレー



バザー開催前のPRツールとして、色鮮やかなフライヤーをつくりました。裏面は「バザー参加診断テスト」と「割引クーポン」になっています。

## フライヤー



## ヘナ・ペインティング

バングラデシュのオシャレ体験！ 1回100円で手に素敵な模様を描いてもらえるコーナーは大好評でした。



## サモサ

バングラデシュの肉まん？南アジアの代表的な庶民の味、「サモサ」が1個100円でお目見え。



## 健康測定コーナー

健康がちょっと気になるあなたに、体脂肪率、筋肉率、体年齢、内臓脂肪を測定します。1回200円。



## 民俗衣装試着コーナー

サリー、アオザイ、チャイナドレス、etc. 色とりどりの民族衣装を身にまとい、記念撮影。着付けに、ポストカードへのプリントサービスが付いて1回300円。



# バザーで出る「ごみ」のこと

粛々と運営されているかに見える「愛のかけ橋バザー」ですが、そこには様々な課題が見え隠れしています。その中でも、毎年必ずと言っていいほど問題になるのが、大量に出される「ごみ」のこと。今年、「なんとかしよう」と新たな対策を試みたところ、思わぬ発見が・・・

文：ごみ担当チーフ 藤井ゆみ子

暫く新潟を離れていたため3年ぶりにバザーに参加させていただきました。今回は、スタッフ用用にNVC名物グリーンカレーを復活させようと呼びかけ、その調整もあった為、前日の朝にようやく会場に行くことができました。カレーの食器類を確認後、数年前の商品量を思いだしながら会場を見てみると、商品がだいぶ少なくなったかなあ～と思うと同時に、良い意味でスッキリ見やすく商品をレイアウトできる状況なので、その分、売場担当も商品の全容を大まかでも把握でき、丁寧に売るためにはかえって良いんじゃないかと感じました。反面、気になったのが、バザー期間中にどんどん出るごみの処理場はどこなのかな？ということでした。そこで、まず、場内にある程度のスペースを確保いただき、「ごみステーション」を開設。カレープロジェクトの運営は嶋田さんにお任せし、私は今回のバザーを「ごみ処理」視点から見させていただくことになりました。

当日は、私と弘前大学の野呂さんを中心に、遊撃手状態のスタッフが交替でお手伝い・・・という体制で始まりました。開始と同時に、お客様の多くが「梱包材を外して！」とおっしゃる隣のタオルコーナーを中心に、空き箱や梱包用のプラスチックフィルムがどんどん運び込まれます。それらをまとめる作業の合間に、何度も各売場に「ごみ回収」にも回りました。そのことでの思わぬメリットを発見！1つは売場の机の下などに置かれている荷物が、商品なのかごみなのか売場担当も気づかずに放置されているケースがかなりあったため、対処するきっかけになったことです。2つめは、ごみの回収をこまめにやることで、バザー進行と並行して会場もどんどん片づいてゆき、最終的には撤収作業もスムーズに運ぶことに繋がるということ。最終的な品物の在庫も目測りながら、しっかりした段ボールは撤収作業用に残したり、販売促進用の看板やディスプレイ資材をもらいに来るスタッフに資材供給もできるのです。そんなことから「ごみステーション」は、ある意味、バザー運営の「隠れた司令塔」的存在かも？と思いました。

さあここで、一番の問題に触れましょう。このステーションでまとめたごみが、その後どうなっているかご存じでしたか？本来なら、こういうイベント時のまとまった量のごみは事業ごみとしてお金を払って自治体が指示した処理場に決められた時間内に運びこまなければなりません。新潟市の場合10kgあたり120円(安い)ですが、これを運ぶための車、人件費などは別。また、土曜は午後3時まで、日曜は受け入れ無しという状況なのです。この処理を10年間、黙ってやってくださっていたのが中条町の佐藤さん。彼はトラックにバザーで出たごみを積んで中条町の自宅に持ち帰り、毎日少しずつ自家用の消却炉で燃やしてくださっていたわけなんです。これは本来なら許されないこと。近所に遠慮しながらなんとか続けてくださっていた行為も、「今年が限界です。」との申し出がありました。そりゃそうでしょう。今まで佐藤さんの行為に甘えてしまっていた我々の一体何人が、このごみ処理問題を深刻に受け止めていたでしょうか？みなさん、ごみはゴミ箱に捨てればおしまい！と思いませんか？来年以降、ごみをどう処理するかは大きな問題になります。一言言い忘れましたが、事業ごみとして処理すると、リサイクルできる素材(缶、ビン、ペットボトルなど)も全て粉碎されて埋め立てられるか消却されるかの運命を辿ります。だから一番良いのは、スタッフでわけて持ち帰り、地域のごみステーションにきちんと分別して出すのがいいのでしょうか・・・できるかしら？

ごみ処理からいろんなことが見えてきました。これは是非、全スタッフで共有して行きたいテーマだと思いませんがいかがですか？



バザーの舞台裏。バックヤードを兼ねた事務局スペースは、本番真っ只中の慌ただしさに緊張感が入り混ざった空気が漂う。

# ご協力いただいた皆様

<郵便局関係>

亀田郵便局  
新潟有明台郵便局  
新潟粟山郵便局  
新潟学校町三郵便局  
新潟関屋本村郵便局  
新潟太平郵便局  
新潟中央郵便局  
新潟中島郵便局  
新潟中郵便局  
新潟西郵便局  
新潟白山浦郵便局  
新潟浜浦郵便局  
新潟堀之内郵便局  
新潟本所郵便局  
新潟本町三郵便局  
郵便貯金新潟センター

<地方自治体関係>

表参道新潟館ネスパス  
新田清掃センター  
新潟市役所職員有志

<企業>

アサヒビール(株)  
アルス美容室  
(株)板倉庄三のサロン

市島酒造(株)

(株)エヌエスケイ  
NTTトークイン新潟  
NTT東日本新潟支店

(株)小川

尾畑酒造(株)  
鹿島建設(株)北陸支店  
(株)加島屋

(株)叶味家

亀田製菓  
北日本工芸(株)  
グリーンシグマ

サイトー商会  
サッポロビール(株)新潟支店  
沢井商店

新発田城カントリークラブ  
(株)鈴木コーヒー  
(有)洗缶フジタ

大成電気工事(株)

(株)タカヨシ

東北電力新潟支店

新潟クリーナー(株)

(株)新潟県厚生事業協同公社

新潟交通(株)

新潟酒販(株)

新潟信用金庫

新潟中央青果

新潟ニッタン(株)

新潟三越  
(株)西原衛生工業所  
白新商会

(株)橋本食肉店

原田乳業  
ピクタリー・カーペンター  
(有)プライダグコティ

(株)細山商店

(株)ホテル新潟

丸一新潟青果

(株)丸屋本店

みずほ信託銀行新潟支店

三井物産

(株)峰村商店

(有)ヤマト

理容室ルミネ

リンベル(株)

<団体>

クリエイティブ2021

JA白根市

全通新潟

新潟いのちの電話

新潟通信病院

<マスメディア>

BSN新潟放送  
FmPort.Com  
NHK新潟支局  
NST新潟総合テレビ  
NT21新潟テレビ21  
TeNYテレビ新潟  
こまち  
週間朝日だより  
新潟日報

<大学・小中学校>

新潟医療福祉大学有志  
新潟県立女子短大有志  
新潟国際情報大学有志  
新潟大学有志  
弘前大学国際協力ゼミ有志  
早稲田大学有志  
江南小学校文教部  
白根市立小林小学校  
新潟大学教育人間科学部  
附属新潟中学校奉仕部

<個人・会員>

会田 恵  
青柳 栄子  
青柳 英子  
青柳 栄子  
赤城 敬子  
赤塚ひろみ  
浅岡香野子  
安達 航紀  
安達 朋子  
阿部美恵子  
阿部 優子  
雨宮 文子  
荒生 里美  
安藤由喜子  
飯島 伸和  
五十嵐 瑛  
五十嵐裕司  
石垣 政宏  
石川真千子  
石口由佳子  
石塚 岳彦  
石本 美来  
石山 芳乃  
泉田 裕子  
磯野美由希  
井出 梓  
伊東 啓子  
伊藤百合子  
稲宮 昌子  
井上 裕子  
今井 英莉  
今井 猛彦  
入倉光一郎  
岩月 高峰  
植木 和子  
歌川 有子  
内山 豪  
江川 裕子  
海老沼敏夫  
大口 幸子  
大久保貴子  
大杉 昌弘  
太田 雅樹  
大竹 祥子  
大竹 康子  
大津 貴浩  
大村 良子

岡 美恵子  
小川 菜絵  
小木ミサヲ  
小熊 常雄  
小野 弘子  
海藤 愛美  
加賀田智恵  
長谷川杏里  
加藤キソ子  
加藤 健太  
加藤 徹  
加藤 政  
金子 和子  
金子 隆  
金子 洋二  
河内 浩一  
川上 千晶  
川上 大和  
川瀬 隆史  
川辺 文子  
北中奈津子  
北村 泰  
木村 和子  
桐山カツ子  
久須美朝子  
桑原 悦子  
剣持 政幸  
小池上綾子  
小泉 春奈  
小泉 裕子  
柑本 英雄  
Quadery Ferdous  
Akther  
幸村 重弥  
後藤さおり  
後藤まゆみ  
小林 時夫  
小林 伸子  
小林美代子  
小林 裕子  
小松 昂史  
小松 寛  
小松 裕子  
小山 美春  
近 知弥子  
近藤あずさ  
今野えりか  
斎藤亜理沙

斎藤 喜平  
斎藤 恭子  
斎藤 秀男  
斎藤 光弘  
三枝さち子  
堺 えい子  
坂井香代子  
坂井香世子  
坂井 悠人  
坂上 元美  
坂木 祐輔  
佐藤可奈子  
佐藤 京子  
佐藤 正  
佐藤ちひろ  
佐藤 信幸  
佐藤 有子  
佐藤 雄二  
佐藤 由美  
沢井  
石敏 变  
重原麻衣子  
志田奈都美  
篠崎 志壽  
嶋田 正義  
嶋田真千代  
清水 洋明  
霜取 孝  
霜村 蒨  
朱 敏昌  
白川美智子  
進 直一郎  
新保 進  
須貝 嘉勝  
菅原 絵美  
鈴木 明世  
鈴木あゆみ  
鈴木 勝夫  
鈴木 才子  
鈴木 孝子  
鈴木 貴登  
鈴木真佐子  
鈴木 峰子  
清田 麗子  
清野 歩  
関 一弥  
関 能徳  
関 洋介

関口 悟  
関本あき子  
関本すや子  
袖山由美子  
多賀 秀敏  
高井まゆみ  
高田真理子  
竹中八代子  
高橋 彩子  
高橋 歩  
高橋恵美子  
高橋 加奈  
高橋 智子  
高橋 節子  
瀧澤 勇人  
瀧澤 陽子  
武石 修  
田辺 綾  
谷口 良  
玉山 恵一  
Chowdhury  
Zulfiguar Ali  
塚本あい子  
土田  
槌屋 史子  
鶴巻 秀和  
道正 慶子  
外山可奈子  
豊森 孝弘  
内藤美和子  
永井 亜弥  
永井亜矢子  
中島英理奈  
中西ユキ子  
中矢 澄子  
新津 厚子  
西田 亨  
西谷 幸敏  
西谷 理香  
ノイス金子  
マーグレット

野呂 沙織  
灰庭 紀子  
萩原寿美子  
羽澤 晴美  
橋本タカ子  
橋本 直子  
長谷川  
長谷川  
長谷川杏里  
長谷川 茂  
服部 彩子  
服部 弓子  
馬場 隆史  
濱 健次  
原 敏明  
原田 平作  
坂 有祈子  
樋浦 千鶴  
樋口三枝子  
樋口 祐亮  
樋山 真弓  
平岩 節子  
平山 章子  
福田 忠弘  
藤井 昌幸  
藤井由美子  
藤崎千代子  
藤崎 ヒナ  
藤田 学  
朴 哲秀  
保坂 瑞樹  
星野 恵子  
星野 幸子  
本田 遊子  
本間 祥太  
本間 千鶴  
前田 徳彦  
前田 有樹  
前谷明日香  
前野 春樹  
町屋麻里子  
松浦 直人  
松山 勤  
丸山 智子  
丸山真理子  
丸山 淑恵  
三浦 真  
光村 晁治

皆川 洋子  
皆木 満  
峯田 史郎  
峯村 康明  
宮部 沙美  
宮 栄承  
目黒奈津美  
目黒 雄介  
森田 義猛  
森本 一代  
安井 啓剛  
安田 耕平  
安田 智子  
安田 美都  
梁取 新一  
矢野真知子  
山井 和緒  
山川 佳織  
山際 敦  
山際 京子  
山倉 裕子  
山崎 光子  
山崎ミヨノ  
山田 和夫  
山田 和子  
山田 健史  
山本 愛  
山本 剛  
山本美保子  
山本 雄介  
吉岡真貴子  
吉田あすか  
吉田 和枝  
吉田 恵子  
与那嶺真琴  
李 相幅  
若井 良江  
若月 章  
涌井 秀夫  
和田 知子  
渡辺 早世  
渡辺 高志  
渡辺 智敏  
渡辺 直子  
渡辺 順美

今年も多くの皆様のご協力、本当にありがとうございました。

商品のご提供、収集、会場設営と値段つけ、当日の売り子、ご寄付、会場・備品貸与など、「愛のかけ橋バザー」は、皆様のご協力なしには成り立ちません。深く御礼申し上げます。

尚、当名簿は、お書き下さった協力者名簿に基づいております。順不同・敬称略でございます。不手際により名前の掲載漏れがございましたら、どうかお許しください。またお気づきの点がございましたら、NVCバザー実行委員会までお聞かせ願います。

## 2003-2004年度の NVC奨学生を決定しました

桐生裕子 運営委員

### 1 奨学生の決定と奨学金授与式

これまでNVCが支援してきた奨学生5人は、全員去る7月に卒業しました。まずは、無事全員が卒業したことを祝い、彼らの前途に期待したいと思います。

今年度新たに奨学生を選定するにあたって、これまでの運営方針を一部見直しました。

### 「NVC奨学金」新運営方針

(1) 障害のある学生又は貧困家庭の学生を対象とし、学業成績、課外活動の状況、家族の状況などを総合的に考慮して決定する。

(2) 奨学生ひとりにつき、年額1万円を支給する。

(3) 初年度は、1年生から4年生まで各学年5名ずつ合計20名を選定する。

(4) 毎年、新入生5人を新たに奨学生として選定し、落第などの特別な事情がない限り、卒業まで奨学金を支給する。

(5) 予算額は年20万円を原則とする。

この運営方針に基づき、2003-2004年度のNVC奨学生20人を選定いたしました。9月4日には在校生15人を対象に、また11月1日には新入生5人を対象に、在ホーチミン市において奨学金の授与式が開催され、スタディツアーでベトナム入りしたNVC会員により、奨学金が直接本人に授与されました。

NVCでは、他に「連合新潟奨学金」、「皆川奨学金」、「大学婦人協会新潟支部奨学金」、「河合志田奨学金」の4つの奨学金の運営に協力支援しており、授与式では、これらの奨学金も併せて授与されました。

(次ページの「奨学生リスト」をご覧ください)

### 2 奨学生の現状

授与式に先立って、福田会員から、奨学金プロジェクトのベトナムにおけるカウンターパートであるSACと協議を行っていただき、いくつか貴重な情報が得られました。

#### 学費及び生活費の水準と奨学金の額

NVCは当初、「学費の2/3を支援する」を基準に奨学金の額を決定しましたが、現在のホーチミン市における学費及び生活費の水準は概ね次のとおりとなっています。

#### 大学の学費(社会科学系)

約2,000,000VND(¥16,000/年)

#### 大学の学費(医学、薬学、コンピューター系)

約3,000,000VND(¥24,000/年)

#### 家賃(大学寮) 約60,000VND(¥500/月)

#### 家賃(アパート)

100,000-300,000VND

(¥800 2,500/月)

#### 電気代、水道代

それぞれ約20,000VND(¥160/月)

ベトナムでは、貧困家庭について3段階に区分しており、最貧困である「貧困撲滅政策対象家庭」の場合、200,000-300,000VND/月/4~5人家族だそうです。今回決定した奨学生のほとんどが貧困家庭に該当しています。アルバイトをしている学生もいますが、家庭教師で、週3回、1回2時間程度で500,000-600,000VND/月とのことです。

NVC奨学金の額1,230,000VND(¥10,000/年)が妥当かどうかについては、さらに検討する必要があります。

#### 奨学金辞退者など

昨年の奨学生で、今回奨学金を辞退した学生が何人かいましたが、理由は、経済状態が改善した、あるいは音楽専門の学生を対象とした奨学金を得たので、機会を他の学生に譲りたいというものでした。

奨学金プロジェクトがどのように役に立っているのか、またどんな課題があるのか、担当者も

ちろんですが、運営委員会や総会においても支援地域の現状に即して常に制度を検討していく必要があると思います。今後とも、SACの協力を得ながら、奨学生の大学生活の様子や将来への抱負、生活環境の状況などについて、可能な範囲で会員の皆様にお知らせしていきたいと思っています。



NVC奨学生のPham Thi Hong Nhungさん(左)とNguyen Van Hanさん(右)授与式の後にインタビューに応え、「奨学金をもらえてうれしい。学費を払うことができる。勉強する時間が増え、がんばることができる。あと、他人が私のことを考えてくれていることがすごくうれしい。」(Nhungさん)「(額は足りなくないか?と聞かれ、)額は十分。NVCの人々の心だけで十分です。一番大切なのは心です。」(Hanさん)

### 2003-2004年度 NVC奨学生リスト

#### 1. LE THANH TRUNG

男、1983.6.26生(20)、Ninh Thuan Province、工科教育大学、機械工学科、1年生  
成績1630

父：年金28万ドン、母：収入なし、極貧家庭認定  
2003国際絵画展入賞、グリーンサマーキャンペーンに参加

#### 2. TRAN THI DIEM HUONG

女、1985.2.20(19)、Tien Giang Province、教育大学、化学専攻、1年生

成績23.530、12年連続優秀生、化学大会で3等受賞  
家賃18万ドン、父：月収70万ドン、母：無職 貧困家庭認定

#### 3. HO THI HANG

女、1982.11.8(21)、Dong Nai Province、教育大学、幼稚園教諭養成課程、1年生

成績1930  
父：健康上の理由により就業不可、母：廃品回収業、兄2人、学齢弟1人、僻地居住貧困家庭認定

#### 4. NGUYEN HUU NGHIA

男、1985.6.7(19)、Dong Thap Province、教育大学、フランス語専攻、1年生  
成績17.5/30

家賃20万ドン、父：農業、母：主婦、学齢期弟妹4人、僻地居住、授業料免除  
フランス語大会3等入賞、銀メダル受賞

#### 5. NGUYEN THANH TU

男、1983.11.10(20)、Binh Phuoc Province、体育教育大学  
成績23/30

父：農業、月収20万ドン、母：商人20万ドン、家賃4万ドン、貧困家庭

#### 6. LE THI HUYEN

女、1983.5.17生(20)、Vung Tau Province、法科大学、民法専攻、2年生

成績8.11  
両親：農業、月収20万ドン、4人の弟妹、うち3人学齢、僻地居

#### 住、地方政府認定の貧困家庭

大学の課外活動に参加

#### 7. LO THI DEM PHUONG

女、1983.12.30生(19)、Ninh Thuan Province、経済大学、コンピューター専攻、2年生  
成績7.5

父：公務員、月収20万ドン、母：農業、兄弟6人、うち4人学齢期、極貧家庭の認定  
大学の課外活動に参加

#### 8. DANH NHAT QUANG

男、1982.8.18生(20)、Kien Giang Province、体育大学、2年生

成績7.0  
父：退職、母：農業、月収30万ドン、兄弟2人就業、2人学齢期、極貧家庭  
学生協会役員

#### 9. NGUYEN HUU DUY

男、1984.6.19(19) Tien Giang Province、運輸大学、建設学専攻、2年生  
成績7.43

父：精神病、母：小売商、兄弟学  
年齢2人、極貧家庭認定

## 10. NGUYEN VAN HAN

男、1980.11.13(22) Binh Thuan Province、人文社会大学、教育学専攻、2年生  
成績 8.5  
両親：農業、兄弟姉妹8人  
本人盲目、常に勉強熱心

## 11. PHAM THI HONG NHUNG

女、1983.8.15(19) Phu Yen Province、人文社会大学、ベトナム文学新聞学専攻、3年生  
成績 8.29  
ホーチミン市に親戚と同居、母：死亡、父：健康上の理由で退職、兄弟なし  
極貧家庭認定

## 12. LUONG NGOC HONG THUY

女、1981.4.16(22) Dong Nai Province、人文社会大学、図書館学専攻、3年生  
成績 8.0  
父：運転手、母：主婦、兄弟5人、うち3人学齢期、地方政府認定貧困家庭

## 13. NGUYEN THI MY DIEM

女、1981.1.24(22) Phu Yen Province、森林大学、経済学専攻、3年生

成績 7.84

両親：農業、兄弟2人家業従事、学齢期兄弟2人、極貧家庭認定  
大学の課外活動に参加、ヘロインの弊害キャンペーンなど

## 14. LE DUC THUAN

男、1982.2.20(21) Dong Nai Province、自然科学大学、化学専攻、3年生  
成績 7.05  
両親：農業、月収20万ドン、農業従事の兄1人、学齢期の弟妹2人  
大学の課外活動に参加

## 15. NGUYEN THANH PHONG

男、1983.12.8(19) Phu Yen Province、自然科学大学、コンピューター専攻、3年生  
成績 8.7  
両親：農業、収入不安定、就業の兄弟2人、学齢期兄弟4人

## 16. DUONG THANH TU

男、1979.9.20(23) Quang Binh Province、人文社会大学、教育学専攻、4年生  
成績 7.0  
父：退職、年金 月23万ドン、母：農業、月収15万ドン、弟妹3人  
地方政府認定貧困家庭

## 17. NGUYEN THI MAI HANG

女、1981.3.17(22) Phu Yen Province、人文社会大学、教育学専攻、4年生  
成績 7.0  
家賃 月15万ドン、両親：農業、兄弟3人、大学授業料免除

## 18. NGUYEN THI NGOC HUE

女、1982.2.3(21) Quang Tri Province、人文社会大学、ベトナム文学新聞学専攻、4年生  
成績 7.0  
月家賃 12万ドン、父：庭師、月収15万ドン、母：年金 月収13万ドン、姉1人、学齢期兄弟3人

## 19. TRAN THI THU NGA

女、1981.7.5(22) Long An Province、医科大学、伝統医学専攻  
成績 7.69  
両親：農業、月収20万ドン、兄弟9人、6人農業、3人学齢期、極貧家庭認定

## 20. TRAN THANH HUNG

男、1982.12.17(20) Dong Nai Province、工科教員養成大学、電気学専攻、4年生  
成績 7.15  
両親：離婚、農業従事の母と同居、2人の妹、地方政府の貧困撲滅政策対象家庭  
大学の課外活動に参加

の試みであるメールとはがきによる連絡でしたが、25人ぐらいの方から参加していただきみなさん熱心に話を傾けていただきました。今後もこういう複合的な講座ができれば楽しいのではないかと感じさせてくれる時間でした。



笙のような音色のラオスの民族楽器「ケーン」を演奏する寺西さん

### 第35回地球を知る講座 アフガニスタンの現場から

2003年9月20日 於 新潟市中央公民館  
講師：谷山 博史氏（日本国際ボランティアセンター（JVC）アフガニスタン現地代表）

（レポート：関 一弥 運営委員）  
\* \* \*

私がアフガニスタンに行ったのは去年の8月から。1年たって一時帰国し全国で支援を訴えている。1989年ラオスで新しいプロジェクトを始めようと、支援者を集めるため日本を回っていた。新潟での講演会を契機としてNVCが立ち上がり、支援を継続してもらった。地方とどう連携していくか、JVCに一つのモデルを示した。タイ、ラオス、カンボジアで8年間活動し、94年からは事務局長を8年間つとめ、そろそろ現場に戻りたいと思いアフガニスタンに行くこととなった。

アフガニスタンを治安の状況から捉えてみたい。現地からの緊急の情報では、9月、アフガニスタンで国際NGOがタリバンと思われる武装勢

力におそわれて4人が殺された。NGOを意図的に殺した事件であり衝撃を受けた。国連を含めた人道援助団体の活動は停滞していきだろう。そのことが、またテロの温床となる。

今、イラクで起こっていることもこれと同じ。国連やNGOが反米活動のターゲットとなっている。いやな言葉であるが、「ソフトターゲット」と呼ばれている。7月にヨルダン大使館が爆破され、8月、国連のイラク本部ビルが爆破され10人以上のスタッフが殺された。イラクでは国連の復興活動はほぼ麻痺状態にある。アフガニスタンにも政府が一応あるが、首都カブールしか実効統治していない。

JVCは、9.11以降、報復戦争をさせてはいけないということで、平和運動に力をいれてきたが、2001年10月に攻撃が始まった。緊急救援活動を開始し、パキスタンに逃げられない国内避難民の支援（毛布の配布や巡回医療活動）を東部国境地帯のキャンプで2001年10月から翌年3月まで行ってきた。緊急支援の段階以降も、巡回医療活動を衛生医療活動とセットで行って来た。

治安が悪くなる要因がいくつかある。大きなものは、軍閥間の抗争であり、支配地域を巡って衝突する。もう一つは、米国、英国が中心となった連合軍（22カ国）が対テロ戦争が終わっていない。誤爆事件など、戦争があるところは必ず犠牲者が生まれ、治安が悪化する。米国が軍事作戦を行っているところでは必ずテロが起こり、治安が悪化し、NGOが入れなくなる。また、原理主義者といわれる人たちの西洋的文明に対する反発からくる、いやがらせ、犯罪なども起こっている。

タリバンはイスラム教の原理に基づいた政治を行ってきた。いつ果てるともされない内戦状態のなか、タリバンを中心とした人たちが軍閥をやっつけた。タリバンが力を得ることができたのは、（裏にはパキスタンや米国があったが）、それ以前の盗賊まがいの軍閥の支配状況があまりにも悪かったから。タリバンが90%あまりの国土を支配して、ある程度治安は安定していたが、タリバンが駆逐されたことによって、以前の軍閥支配状況に戻ってしまった。

米国が中心となっている連合軍は治安を守るためではなく、対テロ戦争に勝利することを目的としている。カルザイ政権と対立している軍閥です

### 第34回地球を知る講座 JVCラオススタッフ帰国報告会

山井和緒 運営委員



「JVCラオス駐在スタッフ帰国報告会&ケーン演奏会」と銘打った講座が6月7日、新潟市総合福祉会館で行われました。当日はラオスから帰国間もない「寺西悦子さん」と国際大学に留学中のラオス人「ケソンさん」をお迎えして自分が赴任してからのラオスの町並み・生活の変化などの環境の話や、NVCとの共同事業である簡易導水施設設置の、計画から実行までを苦労話を絡めながら興味深い話を熱くいただきました。

途中からはビデオやラオスの民族楽器である「ケーン」の演奏を交えて話だけではない、いろんな要素が詰まった講座でした。参加者も今回初

ら利用する。さらには、アルカイダと名指されたものが米軍の攻撃の対象となるなどの密告政治が、軍閥間の疑心暗鬼を生んでいる。米軍もたれ込みや北部同盟の情報提供に従って動かざるを得ないということもあり、米国の軍事行動が盛んに行われている地域では住民の不満が高まっている。

また、いわゆる「原理主義者」の影響が増大している。そもそも、アフガニスタンがソ連から侵攻された時、反抗したのはイスラム主義を掲げて戦ったグループである。ヘクマチュアル、北部同盟のタジク派が中心となったイスラム教会などの中にも、急進的な人達がいる。今は反タリバンでまとまっているが、国際的な監視がなくなれば、急進的な思想を持っている人たちが力を増してくるだろう。

今後、どういふ展望があるのか。2001年12月にボンで行われた和平会議での合意書では、国民の負託を受けた政権が樹立されることで第1段階が終わることになっており、選挙は来年の6月に予定されているが、これが出来るか不明。選挙の前提である憲法制定が遅れており、10月に予定されていた憲法制定ロヤ・ジルガ(国民大会議)が12月中旬以降に延期された。憲法の草案はできているが、その中身は公開されていない。時間をかけて議論しなければならないことが後手後手になっている。

さらに軍閥の武装解除はもっと難しい。武器を取り上げ、動員解除し、社会復帰させるプログラム(DDR: Disarmament, Demobilization and Reintegration of ex-combatants)を選挙までに行う予定となっているが、これのイニシアティブをとるのは日本政府である。武装解除は一斉にやらなければならないし、一軍閥に過ぎない北部同盟パンジール派が牛耳っている国防省の改革が前提となっており、6月から始まる予定であった武装解除プログラムはずるずると延期されている。

40万人~50万人いる軍閥の私兵をどう動武



装解除させるか。もし武装解除がうまくいったとしても、だれが現在の治安を守ってくれるのかという根本的な問題もある。新国軍の創設計画はあるが時間がかかっている。カルザイ政権、援助関係者は、今はカブールにしかない国連の承認を受けた国際治安支援部隊(ISAF: International Security Assistance Force)を全国に展開してほしいと要望しているが、米国、EUが拒否している。一方、米軍は復興活動を担うPRT(Provincial Reconstruction Team)を全国8つの主要都市に設置することを決め、この組織はセキュリティも守ると言い始めている。この組織では、中立が必要とされる人道援助を連合軍が行うこととなり、援助活動が戦争に巻き込まれてしまう。さらには援助調整まで行いたいと言っており波紋を呼んでいる。これは、援助そのものを米軍の管理下に置きたいということであり、進駐軍が、軍事、セキュリティや民政全体を管理する型は、イラクのモデルともなってしまうのではないかと危惧する。

選挙が終わってみないとアフガンの今後は予想できない。政権が決まると長期的な援助や復興プランもできるだろう。今、援助活動がとぎれてしまうと、13年前にソ連が撤退し、国際社会の関心が薄れ手を引いてしまった後の悲惨な状況が繰り返されてしまう。とにかく関心を失わないことが重要である。

JVCでは、2つの郡で2つのクリニックを支援するプロジェクト、医療従事者養成専門学校を支援し、女性のアシスタントドクター等の養成を行うプロジェクト(女性が女性を見る。アフガニスタンでは妊産婦の死亡率820人/10万人、1歳児未満の乳幼児死亡率152人/1000人となっている)、伝統産婆さんの再教育トレーニングプロジェクト、女子学校の増設支援、地雷会費教育の支援プロジェクト等を計画している。同時に平和のための情報発信・提言活動も手がけていく。

これらの活動を通して、3~5年後、村人達が自分たちの力で村づくりを行っていきけるように活動していきたい。

## ベトナムカフェ

県立新潟女子短大2年 服部彩子

私は今年の9月、ベトナムスタディーツアーに参加しました。実際に現地へ行って、様々な人に会い、NVCが多くの人々を支援しているということが分かりました。それと同時に、ベトナムにはまだまだ厳しい生活を強いられている人達がたくさんいるということも知りました。私はベトナムで学んだことを自分だけの経験として終わらせたくはありませんでした。私の中で、伝えなくてはならないという義務感のようなものが生まれました。

日本に帰って来てから、授業中にスタディーツアーの報告をさせてもらいました。帰国してから2日目ということでかなり熱の入った話し方だったようで、先生や友達がとても興味を持ってくれました。そして、私はぜひこの体験を多くの人に知ってもらいたくて、目前に迫っている文化祭でベトナムでの体験を伝えたいと思いました。

多くの友人が応援してくれることになりました。私はまず、ベトナム報告書を作成し、先生方、友達、後輩に配りました。このような活動から、ベトナムの服部さんなんて呼ばれるようになりました。突然の文化祭出展だったため、かなりドタバタしていましたが、ギリギリセーフで何とか教室も確保でき、話し合いの結果、ベトナムカフェというお店で、ベトナム風コーヒーとお菓子のセットを100円で売ることになりました。また、教室内に募金箱を置くことになりました。主な展示物は、私がスタディーツアーで撮ってきた写真、それについてのコメント、ベトナムの紹介、ベトナムコーヒーの飲み方の説明、山井さんにお借りした写真などです。これらの展示物の作成、買出し、徹夜会議などで最後の1週間はかなり忙しかったです。

そして迎えた当日・・・お客さん来てくれるかな、なんていう不安は一気に消え去りました。お店は大盛況で、2日間で168杯のベトナム風コーヒーが売れ、募金は何と約3万円も集まりました。さらに嬉しかったことは、沢山の人が私のベトナムで撮ってきた写真とコメントを熱心に読んで質問してくれたり、私の話を真剣に聞いて



くれたということです。私はこの2日間、年齢も性別も国籍も違う様々な人と話をしました。そして、思っていたより多くの人々が国際協力に興味を持っているということに気がきました。今回、スタディーツアーの報告やNVCの紹介をすることによって、皆さんにもっと身近に国際ボランティアを感じてもらえたのではないかと思います。また、興味がなかった人にも何かを考える、いいきっかけになったのではないかと思います。この売り上げと募金が少しでもベトナムの人々の支援につながれば嬉しいです。

最後に、ご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

## お知らせ

### 掲載情報を募集します!

かけ橋を読者相互の情報共有の場として活用するため、随時掲載情報を募集しています。国際交流やNPO全般について耳寄りな情報がございましたら、どしどしNVC事務局までお寄せください。

寄稿される場合、文字数は問いませんが紙面の都合で調整させていただく場合があります。次回「かけ橋23号」は、総会後の6月下旬頃発行予定です。掲載情報は6月上旬までにお送りください。

# リレータ

# NVC's Human Network

フェルドウス アクタル カーデリさん（前回）からバトンタッチ  
藤崎 千代子さん 運営委員（新潟市）

1996年に夫を亡くし、その香典返しをNVCに寄付して、ベトナムに分教場を建ててもらってから、そのまま「おさらば」ではあまりにも失礼だと思ったのが、入会の契機である。その時から6年が経過した。会員は運営委員会に自由に参加できると聞き、最初は興味本位で覗いてみた。その時の印象は忘れられない。何やら、独特な専門用語が飛び交っているのだ。さっぱり理解できず、知り合いもあらず、甚だ居心地がよくなかった。私は門外漢だと痛いほど思い知らされた。この頃は幾分分かるようになったが、未だに分からず、「……って何ですか？」と図々しく聞いている。

新人が顔を出した時、独特の用語には一言、さりげなく解説を交える心遣いを、先輩諸氏にお願いしたい。そうすれば、新人の定着率がもう少し上がるのでないだろうか？若い会員へのお願い。会員の中には、ITに馴染めない高齢者も少なくない。メディアはITだけではない。顔がみえ、声が聞える人間臭い繋がりこそが連帯の基本ではないだろうか。谷田さんはバザーの協力者を顔と声で誘っていたのだと、今年こそ、実感させられた。会員同士、お互いの立場を思いやって、仲良く活動したいと願っている。



バトンを後藤さおりさんに渡します。今年の8月、バングラデシュへのスタディツアーで一緒したのが、最初の出逢いでした。英語はべらべら、「報告書」の編集から装丁まで、滝沢（陽子）さんと協力してやってのけた頼もしい若人です。

佐藤文康さん（前回）からバトンタッチ  
永井 亜矢子さん 会員（東京都）

大学3年生の頃、ODAが使われ政府が関与しているプロジェクトを見て勉強をしたいという思いから、マダガスカルスタディーツアーに参加したのがNVC会員となるきっかけでした。現地を実際に訪れ、想像以上の状況に圧倒されたことを今でも鮮明に覚えています。又、特にスタディーツアーをコーディネートして下さった方々やスタディーツアーに参加している人達全員が「何か自分達ができることはないか」と積極的に動いている姿より学ぶことがたく

さんありました。そのような人達の背中を見て学び、大学4年生の時には、積極的に自らケニアスタディーツアーに参加し、実際にツアーの中で動くことで本当に多くの人々より学ぶことが出来ました。そして、社会人となった今でも年に一度新潟で開かれるNVC愛の架け橋バザーに参加し、様々な人達と出会い、話をすることで刺激を受け、NVCという場が自分にとって大きな存在となっているように思います。

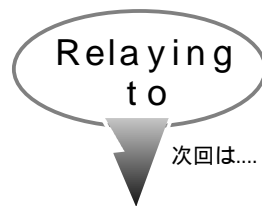


マダガスカルスタディーツアー、ケニアスタディーツアーと共に参加し、共に学んできた名前の漢字の印象からは想像出来ないような人、今井猛彦さんに次のバトンを渡ししたいと思います。

山際 敦さん（前回）からバトンタッチ  
吉田 あすかさん 会員（田上町）

私がNVCと関わるようになったのは、学生時代のゼミの先生との縁がきっかけでした。その後、運営委員会へ見学に通うようになり、バザーへも参加させていただきました。NVCと関わりを持つことで、少しずつその活動と活動の魅力を知ることになりました。特に、私が活動を通して魅力を感じている点は、どこか遠くへ行ってではなく、県内という身近な場所で、国籍を問わず、喜んでくれる人へと繋がることのできる活動に参加できる点です。しかし、昨年社会人になり、新しい環境への戸惑いと私の目の前のことで精一杯に

なると、それ以外のことが考えられなくなるという性格から、ここ1年半活動への参加がとても遠退いています。残念です。けれども、今の生活では、学生の頃のように運営委員会へ頻りに通うことや、またバザーの準備期間に平日労働力を提供するといった参加の形は難しいです。よって今後は、地球を知る講座や来年度のパザー参加などを通し、今の私にできることから協力し、活動を楽しんでいきたいと思っています。今後とも皆様どうぞ宜しくお願い致します。



次は私の尊敬し、憧れる大学時代の先輩！長谷川杏里さんをお願いします。

山井和緒さん（前回）からバトンタッチ  
西村 智奈美さん アドバイザー（新潟市）

会員の皆さんお元気ですか。ここのところ運営委員会からも遠ざかっており、申し訳ありません。今年のパザーも事情あって会場に立ち入ることができませんでした。典型的な会費会員になりつつある私ですが、講座やツアーや新年会などに参加したときには、またよろしくお願ひいたします。思えばNVCとのおつきあいもう14年になります。学生時代、「こんどバザーやるから、よろしく」と声がかけれ、何が何だか分からないうちに「はい」と答えた日のことが、つい昨日のことのように思い出されます。参加してみても充実感は予想

以上でした。そもそも感動することなど期待していなかったのですから。新潟からダイレクトに行く国際貢献の魅力にとりつかれ、東京中心でなく地方から世界を見る視点を学んだことが、私にとっては大きな収穫であったのです。ラオスの子どもが死ななくなり、ベトナムの若者が希望をもって勉強を続けられる等々の成果は確実に生じました。しかしいちばん大きな成果は、NVCの活動をとおして人が育っているということではないでしょうか。いろんな人がいることが、NVCの素晴らしいところだと私は思うのです。字数がつかまりました。またお会いできるのを楽しみにしています。



第四棒は「ヒストリー・テラー」系でしょうか。私が答えることができなかった山井さんからの問いに対しては、きっと中条町の佐藤正さんがきっちり答えてくださると思います。おいしいお米をつくる佐藤さん、よろしくお願ひいたします。

# 事務局 だより

## 新年会のご案内

今年は、アジアの料理を手作りする新年会を復活させましょう。

お料理のレシピもわかって、一石二鳥だよ！  
メニューは只今、調整中です おたのしみに～  
担当：嶋田&藤井

日時： 2004年1月24日(土)12時～  
お料理を作るところから参加したい方は  
9時30分に集まってください  
エプロン、手拭きなど持参ください

場所 新潟市総合福祉会館  
会費 社会人 1500円  
学生 1000円  
差し入れモチロン大歓迎です

## 会費納入のお願い

会費の納入をお忘れになっていませんか？  
会費は、NVCの運営および事業資金として生かされます。  
ぜひとも納入をよろしく願いいたします。

(年額)  
個人会員 一口12,000円以上  
夫婦および家族会員 一口20,000円以上  
大学生 一口 3,000円以上  
団体会員 一口10,000円以上  
(高校生以下は無料です。)

(振込先)  
郵便振替口座番号  
00660 2 21594  
加入者名 NVC事務局

## NVCのメーリングリストが できました！

このメーリングリストではNVCの最新情報をお知らせします。どなたでも登録できます！ぜひご参加下さい。

毎年秋のバザーには県内のみならず広い地域からボランティアスタッフが参加しますが、広いゆえに情報の共有に難がありました。このため今年はバザーを前にしてMLを作成し、バザーの準備の状況などを随時お知らせしてきました。NVCの情報をメールで発信するという話は以前からあったこともあり、バザーが終わった今、(バザーに限らず)NVCのもとに集まった人たちとの間でNVCについての情報を共有するMLとして引き続き活用することになりました。

主な情報としては、事務局からはスタディーツアーや地球を知る講座開催のお知らせ、「かけ橋」や「もうかけ」の発行のお知らせ(HPにアップロードした時点で)、総会・新年会等の各種イベントの告知、各種緊急支援の呼びかけ、などを予定しています。事務局からの一方通行のメーリングリストではありませんので、参加者の間でNVCに関する情報のやり取りもできます。事務局からは上記のような折にメールを送信しますが、ML参加者同士のメールもありますし、頻度としては不定期となります。

これまでも会員だった皆様にはこれまで以上にはやく情報をお届けできると思いますし、新たにNVCに興味を持ってくれた皆様にとってはNVCについての気軽な情報源としてご利用いただけると思います。NVCへの興味とメールアドレスさえあればどなたでも参加いただけますので参加ご希望の方は事務局までぜひご連絡下さい(ホームページからもご参加いただけます)。

担当：運営委員 峯村康明  
info@nvcjapan.org